

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 2 2 年 6 月

岡山大学

目 次

資料 1-1-1	教育学研究科教職実践課程の概要	1
資料 1-1-2	がんプロフェッショナル養成コースの概要	1
資料 1-2-1	保護者へのアンケート調査	2
資料 1-2-2	保護者への成績通知制度の概要	2
資料 1-3-1	岡山大学－中国東北部大学院留学生交流プログラム（0-NECUS）の概要	3
資料 1-3-2	岡山大学・フエ大学院特別コースの概要	3
資料 1-4-1	大学院教育指導カードシステム eGRAD の概要	4
資料 1-4-2	医療系大学院高度臨床専門医養成コースの概要	4
資料 1-5-1	自主学習施設（Waku2 スクエア）の整備	5
資料 1-5-2	イングリッシュ・カフェ活動状況	5
資料 1-5-3	にほんごカフェ（Sacra）開設	5
資料 1-6-1	鹿田地区サークル棟新設	6
資料 1-6-2	課外活動施設整備状況	6
資料 1-7-1	鹿田地区食堂施設利用状況	7
資料 1-7-2	津島キャンパス福利厚生施設についての分析	7
資料 1-8-1	成績優秀者に対する奨励金・研究奨励金制度の 新たな導入	8
資料 1-9-1	留学生に対する支援	9
資料 1-9-2	留学生相談者数	9
資料 1-9-3	日本語教育コース（岡山大学副専攻コース） の概要	9

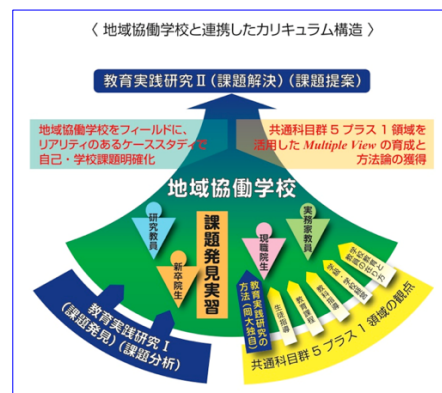
資料 2-1-1	教育研究プログラム戦略本部と推進拠点に 認定された大型研究プロジェクト	10
資料 2-1-2	論文の引用動向	10
資料 2-2-1	岡山大学重点プロジェクト（学内 COE）一覧	11
資料 2-2-2	戦略的プログラム支援ユニットの概要	11
資料 2-3-1	研究推進産学官連携機構図	12
資料 2-3-2	岡山大学インキュベータの概要	12
資料 2-4-1	「岡山大学プロジェクト研究評価委員会要項」 の抜粋	13
資料 2-4-2	プロジェクト研究評価委員会開催記録	13
資料 2-5-1	異分野融合先端研究コアの概要／テニユア・ト ラック教員国際公募	14
資料 2-5-2	極限量子研究コアの概要／コア長を京都大学か ら招聘	14
資料 2-6-1	プロジェクト研究教員選定要項（抜粋）	15
資料 2-6-2	プロジェクト研究教員の認定状況	15
資料 2-6-3	プロジェクト研究教員：異分野融合先端研究コア の研究成果の例示	15
資料 2-7-1	学術分野のインフラストラクチャー充実のため の予算	16
資料 2-7-2	平成 21 年度における国の補正予算による研究設 備等の充実	16
資料 2-8-1	共同利用スペースの確保状況	17
資料 2-8-2	オープンラボラトリー整備・利用状況	17

資料 2-9-1	マグマ特許による大型知的財産の形成戦略の概要	・ 18
資料 2-9-2	知的財産の動向	・ ・ ・ ・ ・ 18
資料 2-10-1	研究推進産学官連携機構の充実	・ ・ ・ ・ ・ 19
資料 2-10-2	外部資金獲得状況	・ ・ ・ ・ ・ 19
資料 2-11-1	平成 21 年度施設パトロール及び評価方法	・ ・ ・ ・ 20
資料 2-11-2	岡山大学におけるスペースの有効活用に関する 規則（抜粋）	・ ・ ・ ・ ・ 20
資料 3-1-1	研究推進産学官連携機構が展開する中国地域産学官 連携コンソーシアムの概要	・ ・ ・ ・ ・ 21
資料 3-1-2	平成 20・21 年度締結 6 件の包括協定一覧	・ ・ ・ ・ 21
資料 3-2-1	科学 Try アングル岡山の概要	・ ・ ・ ・ ・ 22
資料 3-2-2	岡山オルガノンの概要	・ ・ ・ ・ ・ 22

資料 1-1-1：教育学研究科教職実践課程の概要

設置に至る経緯と理念

- 平成 18 年中教審「今後の教員養成・免許制度の在り方」答申、平成 19 年専門職大学院設置規準改正により教職大学院制度が創設されたことを受け、教育現場の現代的課題に柔軟かつ的確に対応できる専門的力量を有した教員を養成・研修する必要性が高まった。
- 本学には、中国四国地方の教員養成の基幹校として、全国に先駆けて設置されてきた「学校教育臨床専攻」「カリキュラム開発専攻」「教育組織マネジメント専攻」のいわゆる現職 3 専攻の教育研究成果が蓄積されていたことから、平成 20 年 4 月、教職実践課程の設置と修士課程の改組を実施した。
- 全国に先駆けた岡山県教育委員会との「連携協力に関する覚書」を背景に、平成 19 年度専門職大学院 GP 採択を受け、教員・院生・学校現場をつなぐ教職コラボレーションセンターを開設し、「教職実践専攻」の開設準備・運営を、教職員と地域協働学校・教育委員会が協働して取り組む体制を確立し、「人間感覚」を尊重した教職大学院の創造を進めた。

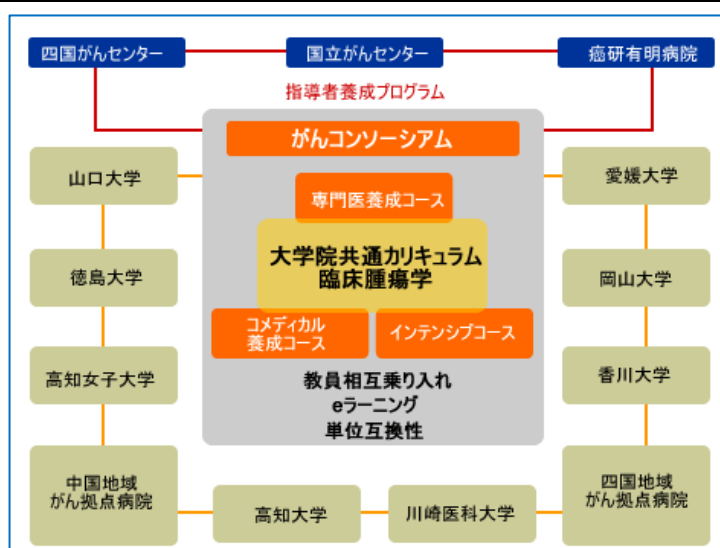


教育成果の積極的発信

- 教科書「スクーラーリーダーの原点-学校組織を活かす教師の力-」の出版
- 文科省専門職大学院等教育推進 GP「真に課題解決能力を育てるカリキュラム開発」最終報告書
- 岡山県教育弘済会野崎教育賞を現職教員院生が受賞（平成 21 年度：算数の指導法の研究）
- シンポジウム「教員養成の明日を築く」（平成 22 年 3 月 27 日：岡山大学教職大学院の今日を語る）

（出典：教育学部 教務係資料）

資料 1-1-2：がんプロフェッショナル養成コースの概要



本コースは、中国・四国の 8 大学院が一つのコンソーシアムを作り、各大学院にメディカル、コメディカルを含む多職種のがん専門職養成のためのコースワークを整備し、これに地域のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門職を送り出すプログラムとして運営されている。

共同運営大学：岡山大学、愛媛大学、香川大学、川崎医科大学、高知大学、高知女子大学、徳島大学、山口大学

下段に、活動状況を広報するコンソーシアムの HP に示す。また Monthly Report を発刊している。

カリキュラムの特徴として、参加大学の

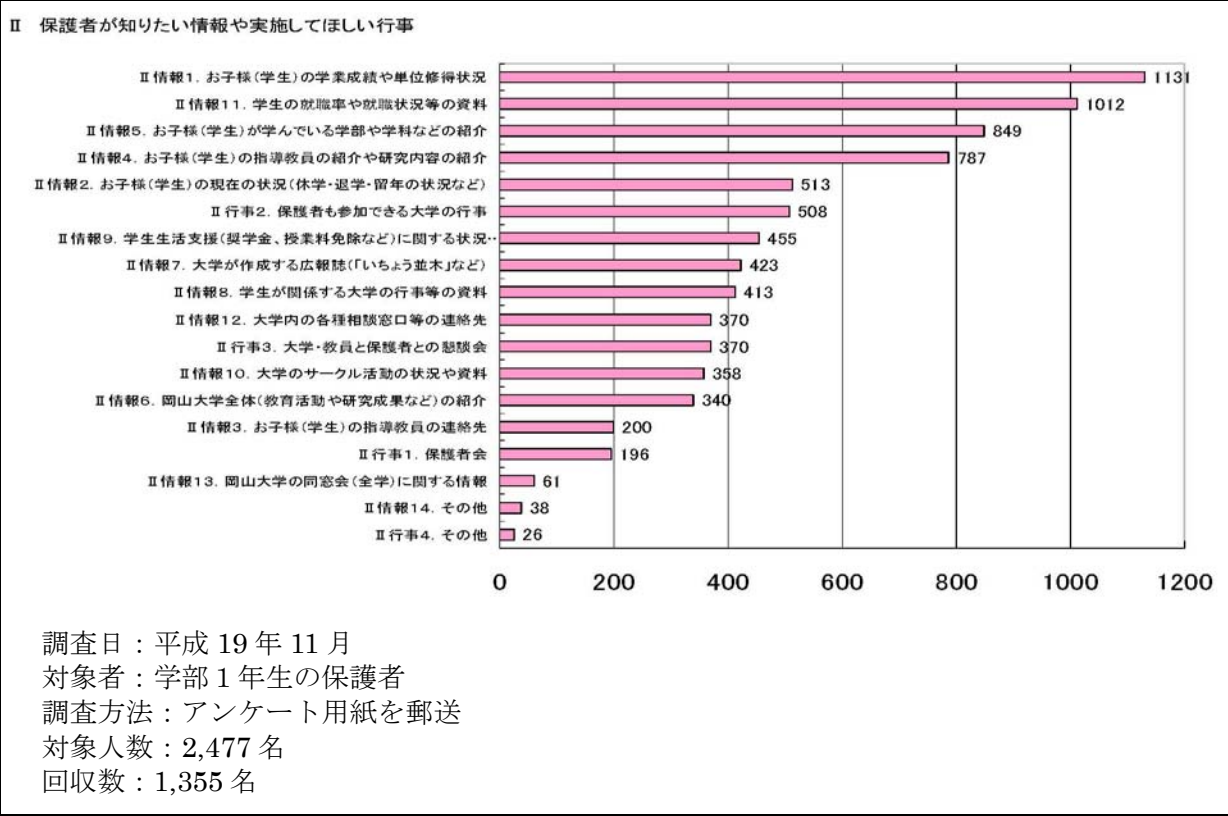
特性、専門性を生かした大学院を軸に、メディカル、コメディカルのがん専門医療人養成コースを設定し、共通カリキュラム[臨床腫瘍学]を必修で課し、大学病院がんセンターでの演習（Cancer Board、外来化学療法センター、緩和ケアチームなど）への参加を通して、多職種によるチーム医療として役立てる。また、臨床研究方法を理解し実践できる人材を育成することがあげられる。

中間評価を実施し報告書を取りまとめ、外部評価委員から高い評価を得た。

（出典：事務局資料）



資料 1-2-1：保護者へのアンケート調査（抜粋：平成 19 年度実施）



(出典：学務部資料)

資料 1-2-2：保護者への成績通知制度の概要

対象：全ての学部学生（但し、特別の理由がある場合は対象外とする。）
通知：毎年、3～4 月に通知。（入学 1 年目については、9 月に通知）
内容：通算の単位修得状況
効果：成績通知制度導入に伴う留年者数の減少等の数値的検証データは、制度導入後日も浅いことから現在のところ明確に示すことはできないが、一部の学部では、留年者が減少している。また、毎年実施している保護者へのアンケート調査では、大学が保護者へ送付しているお子さん（学生）に関する情報については、「十分である。」の割合が 7.5%も上昇し、6 割を超えた。

平成 22 年 3 月

学生保護者 各位

岡山大学長
千葉 隆三

単位修得状況確認表の送付について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のことと存じます。
日頃より本学の教育につきまして、ご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、本学では、保護者の方との連携により、学生へのより適切な修学指導を行うことを目的として、別紙のとおり学生の成績（単位修得状況確認表）を送付させていただきます。
本学においては、学生の修学指導について鋭意努力しておりますが、保護者の皆様におかれましても、ご協力をお願いいたします。
また、修学上のご相談等につきましては、各学生の指導教員が対応しますので、お尋ねの際は、下記お問合せ先までご連絡願います。
なお、本学文学部では、卒業に必要な科目の修得について、下記のとおり条件を設けております。
敬具

記

人文系	事項	単位数	備 考
卒業要件単位数	1 2 4 単位	卒業要件科目は、3 4 単位 専門教育科目は、9 0 単位	
	標準修得単位数（*1）	1 年間あたり 3 0 単位	総修得単位数 1 年次終了時点 3 0 単位 2 年次終了時点 6 0 単位 3 年次終了時点 9 0 単位

（*1）標準修得単位数とは、文学部が設定した履修指導上の目安です。半期 15 単位、通年 30 単位を単位修得の標準とします。したがって、1 年次、2 年次、3 年次終了時点でそれぞれ 30 単位、60 単位、90 単位以上の単位の修得が求められます。文学部では、半期ごとに各学生の成績を調査し、修得単位数が標準単位数に満たない学生への履修指導を実施しています。

※平成 15 年度以前に入学者については、卒業要件単位数が異なることがありますので、下記お問合せ先にてご確認ください。

以上

【お問合せ先】
〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1-1
岡山大学文学部教務学生係
電話 086-251-7370
* 内容によっては、少しお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

岡山大学
〒700-8530
岡山市津島中三丁目 2 番 27 3 9 4 号

学生番号：
学生氏名：

岡大 成績表 27 3 9 4 第

単位修得状況確認表

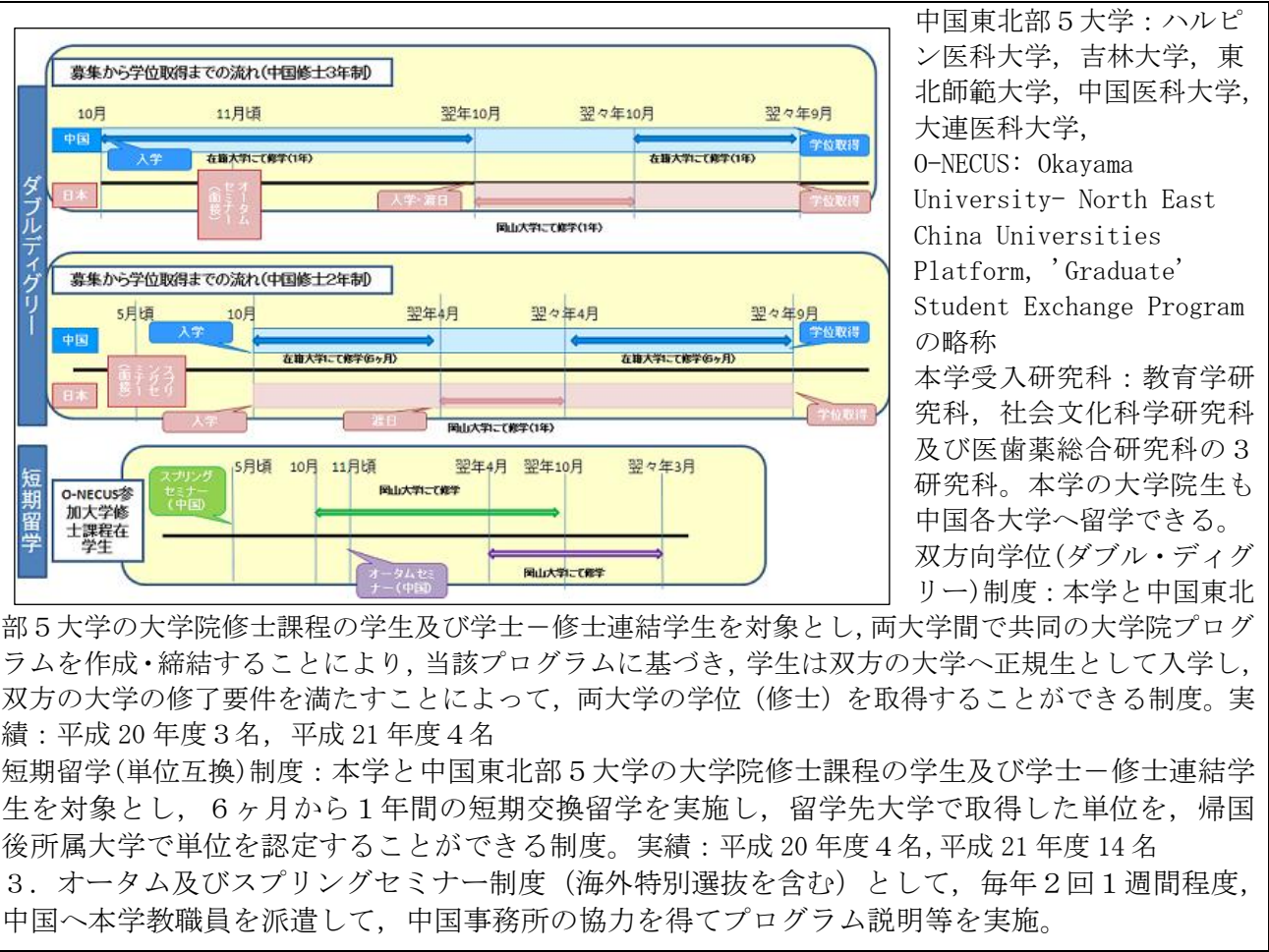
平成 21 年 3 月 31 日
調査期間：平成 19 年 9 月
調査対象：1 年生

調査：各学部・各学科・各学年・各科目・各単位の修得状況

学部・学科	学年	科目	単位数	修得状況	備考
文学部	1 年次	国語 I	3	○	
		国語 II	3	○	
		英語 I	3	○	
		英語 II	3	○	
		数学 I	3	○	
		数学 II	3	○	
		社会 I	3	○	
		社会 II	3	○	
		自然 I	3	○	
		自然 II	3	○	
文学部	2 年次	国語 I	3	○	
		国語 II	3	○	
		英語 I	3	○	
		英語 II	3	○	
		数学 I	3	○	
		数学 II	3	○	
		社会 I	3	○	
		社会 II	3	○	
		自然 I	3	○	
		自然 II	3	○	
文学部	3 年次	国語 I	3	○	
		国語 II	3	○	
		英語 I	3	○	
		英語 II	3	○	
		数学 I	3	○	
		数学 II	3	○	
		社会 I	3	○	
		社会 II	3	○	
		自然 I	3	○	
		自然 II	3	○	

(出典：学務部資料)

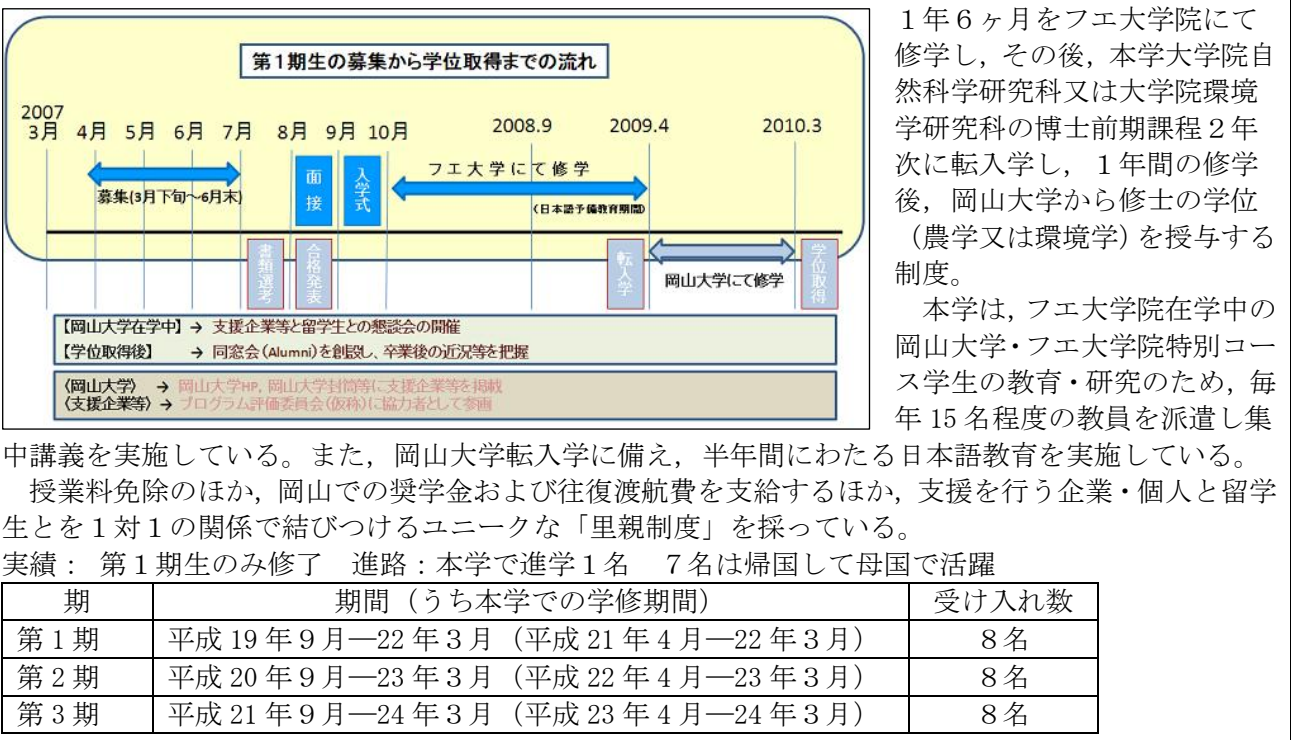
資料 1-3-1：岡山大学・中国東北部大学院留学生交流プログラム(O-NECUS)の概要



(出典：学務課資料)

資料 1-3-2：岡山大学・フエ大学院特別コースの概要

岡山大学転入学制度を活用したフエ大学院特別コース



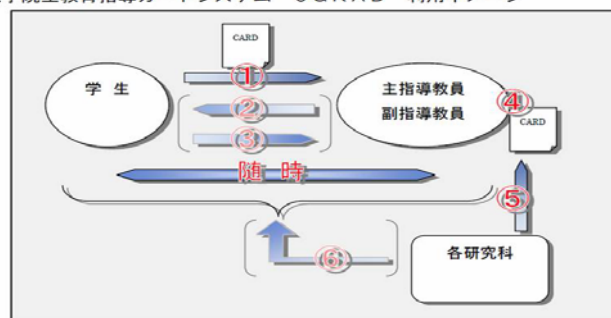
(出典：事務局資料)

資料 1-4-1：大学院教育指導カードシステム eGRAD の概要

登録状況：

文化科学・社会文化科学研究科	： 4 8 %
自然科学研究科	： 6 3 %
環境学研究科	： 5 2 %
保健学研究科	： 3 0 %
医歯薬学総合研究科（医・歯）	： 2 7 %
医歯薬学総合研究科（薬）	： 3 2 %

大学院生教育指導カードシステム eGRAD 利用イメージ



- ① 学生から指導教員へカード提出
② 指導教員からカード返送 ※
③ 学生からカード再提出 ※
④ カード受領
⑤ カード閲覧・検証
⑥ 各者への面談 ※
- ※：②③⑥は必要に応じて行う。
随時 学生・指導教員の打ち合わせ

活用例

学生からのカード提出

講義の受講状況：必修の単位を全てD1の時に修得しました。選択必修（要件8単位）のうち、4単位をD1の時に修得し、現在（D2）2単位履修中です。3年次に……

研究活動の状況：「…」というテーマに現在取り組んでいますが、研究の方向性を転換する必要があることが最近分かりました。今後は〇〇について検討する予定です。

学会発表等の状況：今年度の学会への参加予定はまだありませんが、研究成果がまとまり次第、積極的に参加したいと考えています。

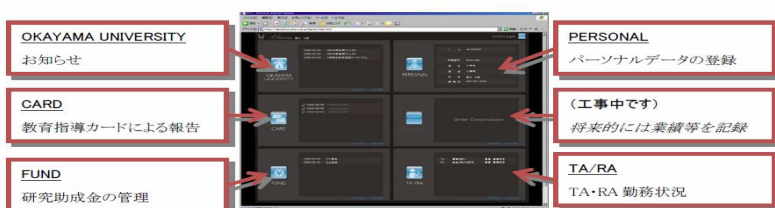
その他の特記事項：特にありません。

指導結果（指導教員からのカード返送）：研究の方向性を修正しなければならないとのこと、大変そうですが、頑張ってください。どういった経緯なのか、また時間があれば教えて下さい。

生活面はどうでしょう？ちゃんと食事と睡眠をとっていますか？遅くまでいつも頑張っていると感心していますが、健康にも十分注意して下さい。（〇〇：2009年△月〇日記入）

研究については別の展開を図ることになりますが、時間的には十分だと思いますので焦らずにじっくり進めて下さい。学会はなるべく早くに参加できると良いですね……

その他、特に問題はないと思います。頑張ってください。（△△：2009年□月〇日記入）



eGRAD のログイン画面

CARD をクリックしてポートフォリオ形式の教育指導カードが開く。

(出典：学務部資料)

資料 1-4-2：医療系大学院高度臨床専門医養成コースの概要

電子ポートフォリオシステム POSTGRA.NE+



取り組み成果報告書 (2010 年 3 月)



冊子体：A3 631 頁

外部評価を 2 回実施：第 1 回外部評価者 GT Clark 教授他 10 名，第 2 回外部評価者古市保志教授他 30 名

岡山医療教育国際シンポジウム開催の実績：第 1 回（2009 年 2 月 1 日）参加者 152 名 ルネスホール，岡山，第 2 回（2009 年 5 月 17/18 日）参加者 297 名 岡山大学 50 周年記念館

EBM ワークショップの実績：第 1 回（2007 年 8 月 4/5 日）参加者 125 名，第 2 回（2008 年 8 月 1/2 日）参加者 125 名，第 3 回（2009 年 8 月 2 日）参加者 39 名

(出典：事務局資料)

資料 1-5-1：自主学習施設（Waku2 スクエア）の整備



平成20年度に開設。無線LAN・有線LANが設置されており、個人用のパソコンで快適にインターネットが利用できる。単なる自学自習のスペースではなく、授業の空き時間・休憩時間でも学生が過ごせる居場所として設置している。また、プレゼンテーションの練習をグループで行うことができるよう整備している。

(出典：いちよう並木 No.54)

資料 1-5-2：イングリッシュ・カフェ活動状況

主な活動内容

- 1) 外国語教育センター英語教員や留学生と、会話やゲームを楽しむフリータイム
- 2) 英会話への苦手意識をなくすためのワークショップ・セミナー
- 3) 少人数の英会話や TOEFL のレッスン
- 4) 英語に関連した自由参加型のイベント



1. 利用人数

前期 平均 約 31 人/1 日、合計 約 1,550 人（*10 週間のみ集計）

後期 平均 約 50 人/1 日、合計 約 2,500 人（*10 週間のみ集計）

*レッスンのない期間（試験期間中など）は一日、前期 10～20 人、後期 20～30 人程の利用者数

2. テスト結果で見る英語の上達

各学生がカフェ利用を始めてから、平成 21 年 1 月までに受験したテストのスコアの結果は、以下の通りであった。

- TOEIC (990 点満点) 人数 15 人
平均点 690 点（最高 860 点、最低 470 点） 平均スコアの伸び 72.6 点
- TOEFL (120 点満点) 人数 15 人（8 名は初めて受験）
平均点 64.3 点（最高 84 点、最低 39 点） 平均スコアの伸び 18.9 点

3. 学生アンケート結果

- イングリッシュ・カフェ全般についての満足度（5 点満点） 4.46
- レッスンについての満足度（5 点満点） 4.44
- 友達はできましたか？ Yes 100%
- 英語又は英会話力は上達したと思いますか？ Yes 52%, Maybe 40%, No 8% (2 人)
- 学生のコメント

*英語を一人で勉強するのはしんどいが、同じように英語を勉強する人とレッスンを受けることでモチベーションが上がった。

*様々なテーマについて話し、日本とは異なる外国の習慣も知ることができた。また英語で考え話す時間を持つことができた。

*とても楽しくてもっと早くからあれば、と思った。今後も参加していきたい。

*外国人と気軽に話す機会を持つことができた。*留学生が親切に話しかけてくれる。

(出典：事務局資料)

資料 1-5-3：にほんごカフェ Sacra 開設

平成21年度に開設した、にほんごカフェSacraは、毎週木曜日の13:00～17:00の間に、外国人留学生の日本語練習の場として設置されており、日本人と話したい、日本語を勉強したい、日本語の作文を添削して欲しい等、留学生と日本人学生との国際交流の場となっている。



(出典：事務局資料)

資料 1-6-1：鹿田地区サークル棟新設



老朽化が著しい鹿田地区のサークル棟を解体し、同敷地に新しいサークル棟を建設した。旧サークル棟には 8 サークルが入居していたが、新サークル棟には 25 サークルが入居できることとなった。

(出典：事務局資料)

資料 1-6-2：課外活動施設整備状況

<平成 20 年度>

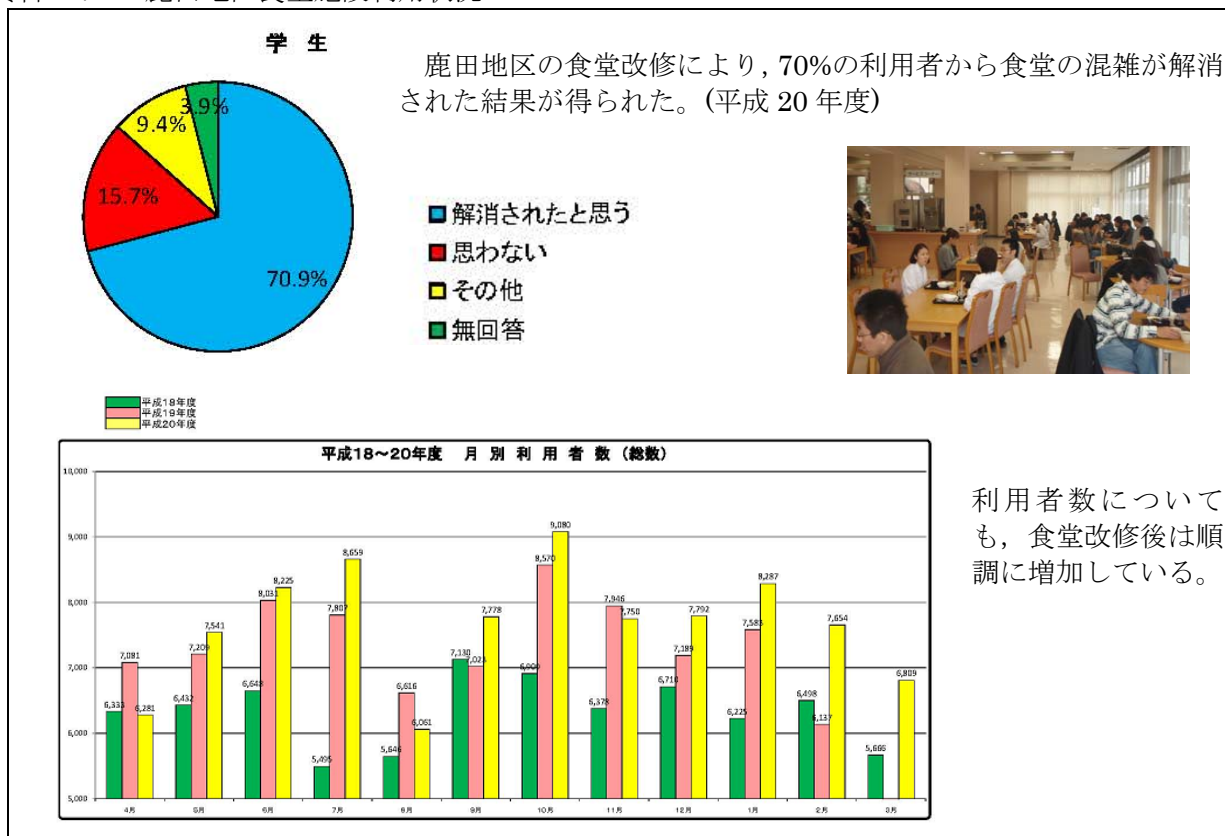
- ・大学会館中央館 耐震工事
- ・サークル共用施設（津島地区のボックス）出入管理システム設置
- ・教育学部体育館 柔道場改修
- ・ヨット部 スナイク級購入

<平成 21 年度>

- ・体育管理施設男女更衣室 窓改修
- ・サークル共用施設横 ゴミ集積場改修及び増設
- ・サークル旧ボックス北側 人感センサーライト（防犯用）設置
- ・大学会館中央館改修
- ・清水記念体育館 更衣室温水シャワー設置
- ・第二体育館 更衣室改修，温水シャワー設置及びトイレ改修
- ・教育学部体育館横 剣道場新設
- ・鹿田地区 学生サークル棟新設
- ・鹿田地区 弓道場の場屋根補強工事
- ・馬術部 馬房前を整地（舗装及び排水溝整備）
- ・ボート部 艇庫畳替え
- ・ヨット部 470 級購入
- ・硬式野球部 ピッチングマシン購入
- ・軟式野球部 ピッチングマシン購入
- ・ハンドボール部 ハンドボールコートフェンス及びコート内のライン改修
- ・陸上競技部 サークル旧ボックス北側の鉄棒整備

(出典：事務局資料)

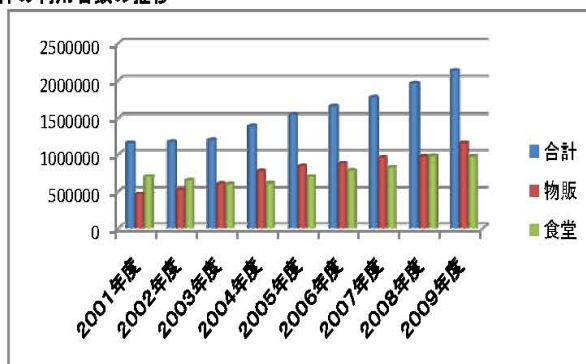
資料 1-7-1：鹿田地区食堂施設利用状況



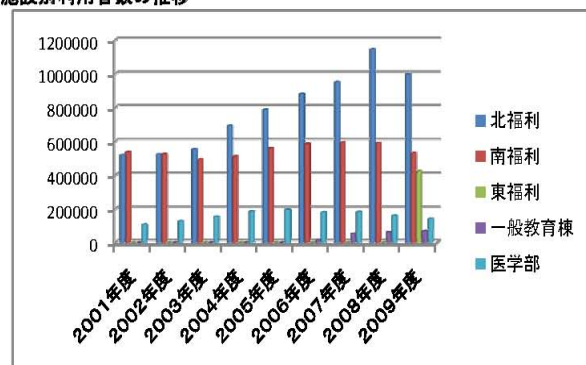
(出典：事務局資料)

資料 1-7-2：津島キャンパス福利厚生施設についての分析

全体の利用者数の推移



各施設別利用者数の推移



平成 21 年度第 3 回学生支援センター学生生活支援部会

①津島キャンパス全体の利用者数は、昨年度より伸びている。これは、今まで施設のなかった津島キャンパス東地区の学生利用が増えたことを反映している。

②北福利施設の利用人員が減っているが、東福利施設(平成 21 年 4 月オープン)ができたことにより、北福利施設を利用していた学生が、近い場所を利用できるようになったためと考えられる。

以上から、津島キャンパス東地区の学生の利便性が向上し、なおかつ全体の利用者数が伸びているということは、潜在的なニーズをも満たしていると思われる。



(出典：事務局資料)

資料 1-8-1：成績優秀者に対する奨励金・研究奨励金制度の新たな導入

奨励金・研究奨励金制度の概要

1. 導入する制度の概要

- ① 学部1年生及び法科大学院1年生に関しては、現行の授業料免除制度を廃止し、授業料相当額の奨学金を支給する。
- ② 法科大学院を除く大学院（修士課程及び博士課程）に関しては、現行の授業料免除制度を廃止し、国内学会・国際学会で発表する学生に対して年1回の割合で研究奨励金を支給する。
2. 従来（平成21年度まで）の成績優秀者に対する授業料免除制度は、修士課程及び博士課程の1年生合計58名のみに対する支援であったが、新たな研究奨励金制度ではすべての大学院生が支給対象者になるとともに、毎年実施するものであり、広く研究意欲を高めることができる。
3. 研究奨励金の支給対象学会は、日本学術会議協力学術研究団体の全国規模の学会を中心に決定する。但し、それ以外の学会でレベルの高い学会等に関しては、研究科長の申し出によって追加することとする。
4. 本制度は、適宜見直しを図るものとする。なお、経済困窮者に対する授業料免除の制度は引き続き実施する。

新しい奨学金・研究奨励金制度
岡山大学

学部学生1年生・法科大学院1年生

授業料相当額を奨学金として支給！

【対象者】
学部
→ 入学試験（前期日程）成績上位1%
法科大学院
→ 入学試験の成績上位5%

【目的】
入学者の学修意欲の向上のため

大学院生（法科大学院を除く）

学会発表者に研究奨励金を支給！

国内学会 → 5万円
国際学会 → 10万円

【対象者】
すべての大学院生（修士・博士）

【目的】
国際的に活躍しうる研究者としての研究意欲を高めるため

注 1. 実施時期：平成22年4月1日
2. 従来の成績優秀者授業料免除制度は廃止します。



岡山大学成績優秀学生等奨学金・研究奨励金に関する取扱要項（抜粋）

（奨学金）

- 第2条 学部学生及び法務研究科に所属する大学院学生（いずれも1年次生に限る。）のうち、次の各号に該当する者には、奨学金を支給する。
- 一 学部学生にあつては、一般選抜（前期日程）に上位の成績（入学定員の1%）で合格し、入学した者
 - 二 法務研究科に所属する大学院学生にあつては、入学試験に上位の成績（入学定員の5%）で合格し、入学した者
- 2 奨学金の額は、当該学生の授業料の年額に相当する額とする。

（研究奨励金）

- 第3条 大学院学生（法務研究科に所属する大学院学生を除く。）のうち、次の各号に該当する者には、研究奨励金を支給する。
- 一 学長が別に定める学会等において、自己の研究成果の発表を行った者。ただし、次号に該当する者を除く。
 - 二 国際的競争力のある卓越した教育研究拠点（学長が指定したものに限る。）に所属する大学院学生のうち、研究能力が特に優秀であると認められた者
- 2 前項第1号に該当することにより支給する研究奨励金の額は、次の各号に掲げる区分に応じて、当該各号に掲げる額とする。
- 一 国内で開催された学会等で発表した場合（次号に掲げる場合を除く。） 5万円
 - 二 国内で開催された学会等で国際を冠するもので発表した場合 10万円
 - 三 国外で開催された学会等で発表した場合 10万円
- 3 第1項第2号に該当することにより支給する研究奨励金の額は、当該学生の授業料の年額に相当する額とし、その支給期間は、当該大学院学生の最短修業年限以内とする。

（出典：事務局資料）

資料 1-9-1：留学生に対する支援

【相談】

留学生相談室では、留学生自身や家族の悩みごと・心配ごとの相談にのっている。相談内容は学習・研究、奨学金、授業料、宿舎、入国・在留、家族、医療等多岐にわたっている。



【ボランティアとの交流】

相談室には、留学生との交流を希望する日本人がボランティアとして登録されており、いろいろな活動を行っている。

1 留学生の家族のための日本語教室

毎週 2 回、留学生の家族のための日本語教室を開催。受講無料。

2 日本語研修生などのチューター

買い物や銀行手続きなどの生活上の手助けや、日本語学習の手伝い。

3 異文化交流

スポーツ大会、パーティ、ハイキングなどの交流イベントの企画。

4 その他：入学直後の留学生に対する支援

岡山に着いたばかりの留学生のアパート探しなど、さまざまな支援。

(出典：事務局資料)

資料 1-9-2：留学生相談者数

平成20年度 月別相談者数

内訳/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
留学生	111	55	58	44	29	55	141	42	71	59	58	40	763
その他の外国人	11	6	6	5	6	5	8	9	5	9	2	3	75
計	122	61	64	49	35	60	149	51	76	68	60	43	838

平成21年度 月別相談者数

内訳/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
留学生	49	75	89	88	33	40	96	123	125	82	34	58	892
その他の外国人	7	4	8	16	7	5	9	6	5	21	5	8	101
計	56	79	97	104	40	45	105	129	130	103	39	66	993

※留学生支援体制の整備により、平成 21 年度相談者数は前年度と比べ 18.4%増加した。

(出典：事務局資料)

資料 1-9-3：日本語教育コース（岡山大学副専攻コース）の概要

日本語教育コース（岡山大学副専攻コース）

平成21年度に開設。日本語及び日本語教育に関する知識と実践能力を獲得し、外国人に日本語を教えられる教師養成を目指す。

平成22年度岡山大学副専攻コース（日本語教育コース）科目等履修生出願要項（抜粋）

1 募集人員

日本語教育コース 5 名程度

2 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者とします。

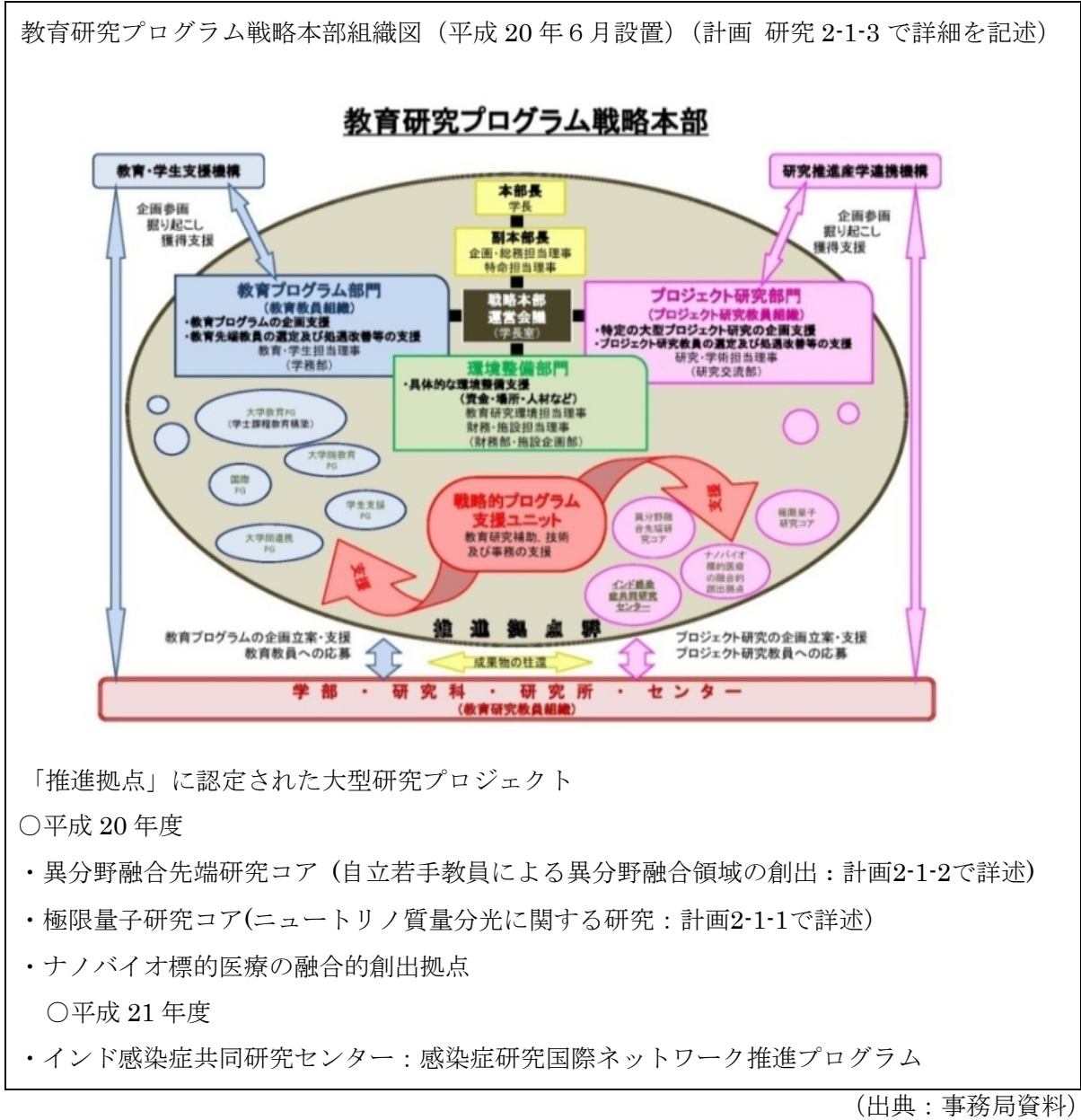
- (1) 大学を卒業した者又は平成22年3月卒業見込みの者
- (2) 本学において前号と同等以上の学力があると認めた者



※ この要項の交付対象者：社会人・本学大学院生対象

(出典：事務局資料)

資料 2-1-1：教育研究プログラム戦略本部と推進拠点に認定された大型研究プロジェクト



資料 2-1-2：論文の引用動向

トムソン・ロイター社による「日本の研究機関ランキング」から抜粋

【総合】

発表年度	国内順位	世界順位	被引用数	論文数	平均被引用数
2006	18	361	88,398	12,450	7.10
2007	18	349	97,698	12,753	7.66
2008	18	345	108,056	13,297	8.13
2009	17	335	120,826	13,701	8.82
2010	17	343	130,575	13,558	9.63

※ 分析結果のハイライト（2009年度）：世界順位の上昇で見ると、上記の独立行政法人、東北大学のほかに慶応義塾大学、岡山大学が目立つ、と紹介された。

(出典：トムソン・ロイター社 HP)

資料 2-2-1：岡山大学重点プロジェクト（学内 COE）一覧

平成 20 年度採択課題

- ・放射光やX線で直視する原子・電子と物質開発研究：自然科学研究科 野上由夫教授
- ・アクチュエータ工学研究拠点の形成：自然科学研究科 鈴森康一教授
- ・ケミカルバイオテクノロジーを基盤とする化合物ライブラリーから創薬までのパイプライン構築：自然科学研究科 穴戸昌彦教授
- ・新たな縦断的調査技術を核とした、人と、情報流布システムのパワーアップー教育効果と広告効果の可視化によるパワーアップビリティーの追求ー：教育学研究科 寺澤孝文教授

平成 21 年度採択課題

- ・生体系物質科学の創生と医科学への応用：地球物質科学研究センター 中村栄三教授

肺組織中の含鉄タンパク質小体ヘラジウムが蓄積し、そのラジウムの蓄積がホットスポットとなって局所的な内部被ばくを引き起こし、悪性中皮腫やほかの悪性腫瘍の原因となることを解明し、生体系物質科学（地球生命物質科学）を創生した。



(出典：事務局資料)

資料 2-2-2：戦略的プログラム支援ユニットの概要

岡山大学教育研究プログラム戦略本部の設置に関する規程 第7条から抜粋

戦略本部に、戦略的プログラム支援ユニット（以下「ユニット」という。）を置く。

2 ユニットの、目的別教育プログラム及び大型プロジェクト研究に対して、直接に、教育研究の補助並びに技術及び事務の支援を行う。

3 ユニットの、次の各号に掲げる職員を置く。

一ユニット長 二その他必要な専任又は兼任の職員

4 ユニットの長は、本学の教員のうちから、本部長が指名する。

5 ユニットの長は、本部長の監督の下に、ユニットにおける業務を掌理する。

6 ユニットの事務は、関係部課の協力を得て、研究交流部において処理する。

戦略的プログラム支援ユニットの構成（職員総 8 名）：

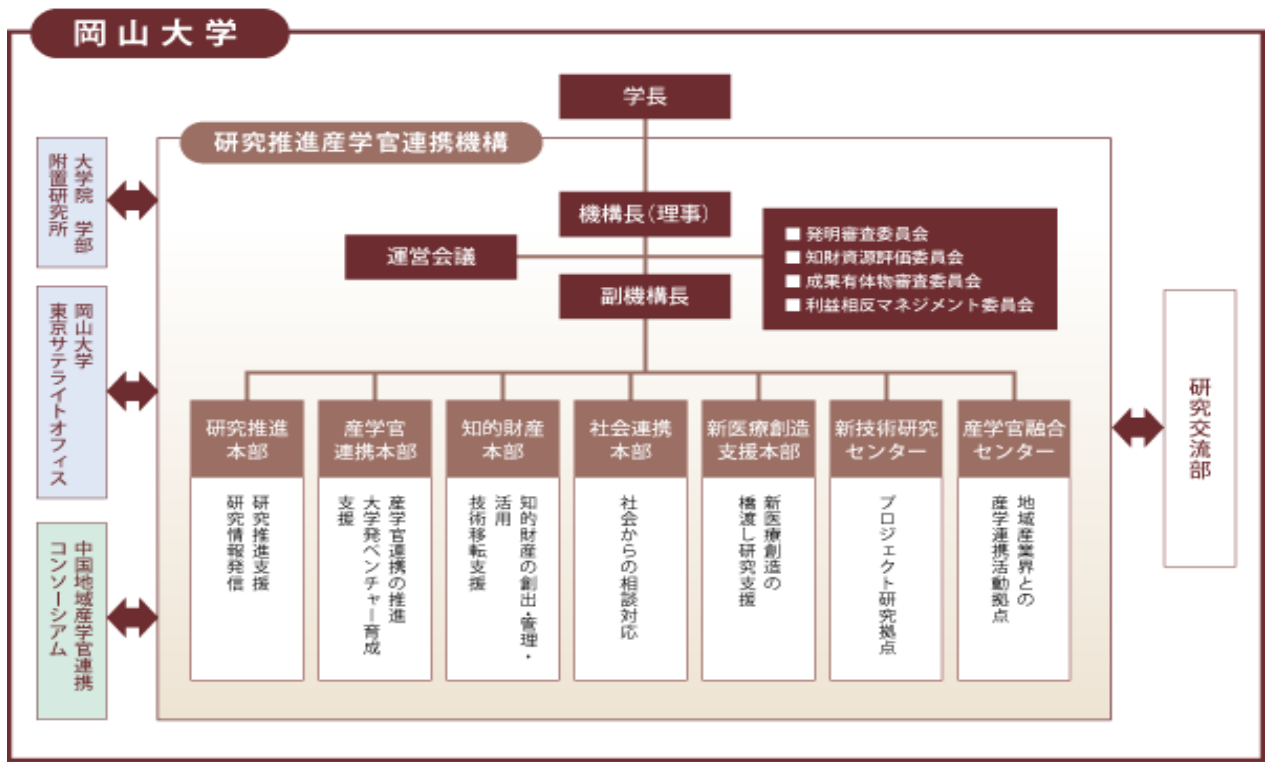
事務職員 5 名、助手 1 名、知的財産アドバイザー 1 名他

業務：プロジェクト研究教員のもとで、教育研究補助、技術支援を行う。

プロジェクト研究に係る庶務、広報及び会計等の事務を行う。

(出典：事務局資料)

資料 2-3-1：研究推進産学官連携機構図



(出典：事務局資料)

資料 2-3-2：岡山大インキュベータの概要



岡山大インキュベータは、中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律（中小企業新事業活動促進法）に基づき、独立行政法人中小企業基盤整備機構が、岡山県及び岡山市から要請を受け岡山大学と連携して、地域の大学・研究機関が保有するモノづくり・材料・バイオ・医療等の分野における研究シーズや地域企業が持つ技術力を活用して、新事業を創出・育成するために整備・運営を行う大学連携型起業家育成施設（インキュベーション施設）である。

居室数は28室（24社が全室入居）で、大学発ベンチャーや大学等との連携により、新たな事業展開を目指して起業や第2創業を

図る個人・ベンチャー企業・中小企業・大企業の社内ベンチャーなどを入居対象者としている。

施設内に常駐する専門スタッフが、入居者の企業活動における様々な案件について常時相談に応じ、各種情報の提供、経営サポート等を行うことにより企業活動を支援している。また、自治体による賃料補助をはじめ公的支援機関等との連携により、技術・経営相談、マーケティング相談等、多彩な支援メニューが用意されている。平成20年8月に完成し、9月から運用を開始した。

入居企業数及び入居率

区分		県内外企業			業種別					入居率
		企業数	(内訳)		ものづくり	バイオ	IT	環境・福祉	サービス	100%
			県内	県外						
新分野進出を目指す企業		9	8	1	7	2				
ベンチャー企業	岡山大学発	8	6	2	2	5		1		
	岡山大学以外	4	3	1	1	2		1		
個人・その他		3	3				2			
計		24	20	4	10	9	2	2		

(出典：事務局資料)

資料 2-4-1：「岡山大学プロジェクト研究評価委員会要項」の抜粋

目的：

本学が大学として戦略的に推進する、学部・研究科の枠を超えたプロジェクト研究（以下プロジェクト研究）の進捗状況の把握及び改善点の助言を行うことにより、研究水準の向上を図ることを目的とする。

業務：

委員会はプロジェクト研究について、その研究スタートアップ時（1年未満）に、研究実施体制や研究課題の焦点化等研究の基本的方向性に関して評価を行うとともに、改善点等の助言を行う。また、特別配分経費（学内 COE 研究支援経費）の配分を受けているものについては、評価結果を学内 COE 中間評価委員会に報告する。

委員会の組織：

- 1 委員長：研究・学術担当理事（副学長）

以下委員：

- 2 研究推進産学官連携機構副機構長
- 3 同機構研究推進本部長
- 4 本学の教員若干名
- 5 学外の有識者若干名

4号と5号の委員は、プロジェクト研究毎に学長が委嘱する。

（平成 21 年 2 月 18 日 学長裁定）

（出典：事務局資料）

資料 2-4-2：プロジェクト研究評価委員会開催記録

平成 21 年 12 月 15 日開催 岡山大学プロジェクト研究評価委員会

対象プロジェクト「アクチュエータ研究センターにおける研究活動（代表：鈴木教授）」

外部評価委員 5 名（東京大学大学院工学系研究科教授，東北大学大学院工学系研究科教授，独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員，津山工業高等専門学校校長，ナカシマメディカル株式会社常務取締役）を含む 10 名の評価委員

代表的コメント：岡山大学でアクチュエータ研究センターを作ったことは大変評価できる。東京大学では、組織が大きすぎて、まとめ上げて作るのが難しい。大学のサポートがあり、よい環境が整っている。日本に一つは必要なセンターといえる、一方 2 重にならないようどこかへ集中することが求められる。是非、日本をまとめて核になるよう、今後も持続的進化を期待したい。

平成 22 年 3 月 9 日開催 岡山大学プロジェクト研究評価委員会

対象プロジェクト「ケミカルバイオテクノロジーを基盤とする化合物ライブラリーから創薬までのパイプライン構築（代表：宍戸教授）」

外部評価委員 3 名（同志社大学理工学部教授，独立行政法人産業技術総合研究所主席評価役，津山工業高等専門学校校長）を含む 7 名の評価委員

代表的コメント：創薬研究の新たな手法としてのケミカルバイオテクノロジーの方法論，自動化装置を開発する上での問題点，今後の研究体制継続への問題点について，建設的な指摘が寄せられた。

平成 22 年 3 月 15 日開催 岡山大学プロジェクト研究評価委員会

対象プロジェクト「地球温暖化抑制のための微生物活用バイオプロセスと”バイオジナスセラミックス”創出事業（代表：高田教授）」

外部評価委員 2 名（独立行政法人産業技術総合研究所産学官連携コーディネーター，津山工業高等専門学校校長）を含む 8 名の評価委員

代表的コメント：本研究は，高いポテンシャルを持っている。材料としてもプロセスとしても，高い機能を持っている。部局横断的研究を進めて，イノベーションにつなげて欲しい。産業化を考える場合，大量生産の戦略は重要だろう。またどの段階で産業界と組むかの戦略も求められる。

（出典：事務局資料）

資料 2-5-1：異分野融合先端研究コアの概要/テニユア・トラック教員国際公募

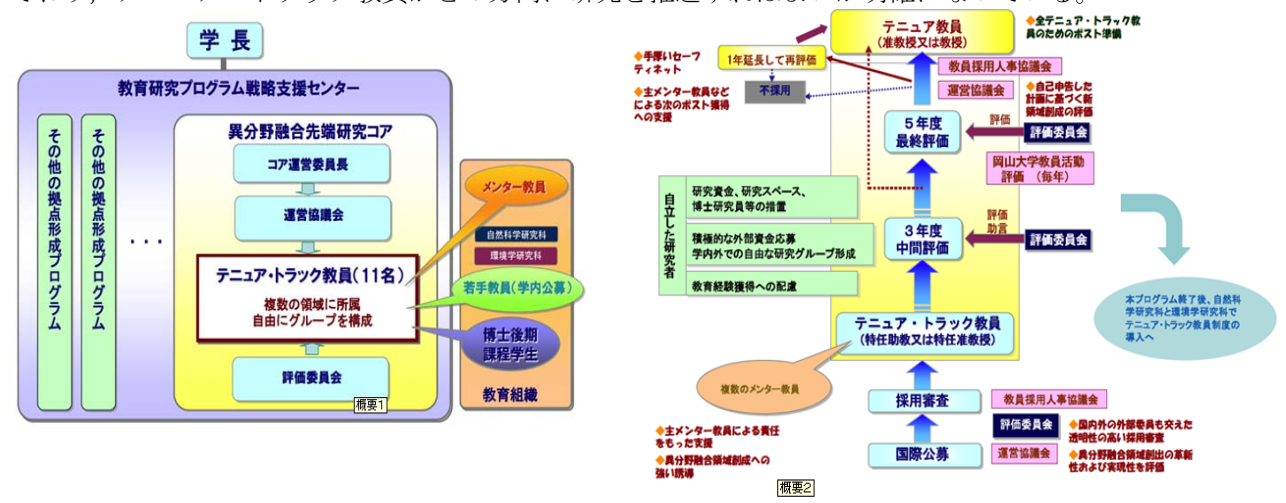
・本学は、将来の革新基幹技術となりうる異分野融合新領域創出を研究の重点と位置づけ、その担い手である若手研究者の育成のための制度改革を進め、若手研究者が自立して異分野融合研究領域の創出を行う研究組織として「異分野融合先端研究コア」を設置した。同研究コアには国際公募された 11 名のテニユア・トラック教員が在籍し、それぞれ複数の研究領域に属している。

2008. 7. 1 第 1 回テニユア・トラック教員国際公募を開始、2008. 9. 19 終了、9 名特任助教を採用

2008. 11. 25 第 2 回テニユア・トラック教員国際公募を開始、2008. 12. 24 終了、2 名特任助教を採用

・テニユア・トラック教員はメンター教員の助言と支援を受けながら、学内公募により選抜され同研究コアのメンバーになった若手教員とともに異分野融合研究を遂行している。テニユア・トラック教員は研究に専念するが、博士後期課程学生の副指導教員や、博士後期課程対象の「異分野融合科学（Interdisciplinary Sciences）」の講義（一人当たり年 2 回程度担当）などで教育経験も積んでいる。

・テニユア・トラック教員の採用審査や研究進捗の評価は、海外（3 人）、国内学外（3 人）の外部委員を含む 12 人の評価委員会で行う。当該評価は、テニユア・トラック教員が採用時に提出した提案研究に基づき異分野融合領域創出の革新性およびその実現性を評価する。評価の基準は被評価者にあらかじめ公開されており、テニユア・トラック教員がどの方向に研究を推進すればよいか明確になっている。



(出典：事務局資料)

資料 2-5-2：極限量子研究コアの概要/コア長を京都大学から招聘

目的：

本コアは、宇宙に反物質が消滅して物質優勢になったという基礎科学最大の謎に関して、実験的に確立したニュートリノ振動との関係で注目を集めている理論の根幹部分を、励起原子・分子を標的とした新たな実験原理により解明する計画を推進することにより、科学の重要課題を解明することを目的とする。

笹尾登コア長略歴：

1971 年東京大学理学部地球物理学専攻卒業。1976 年エール大学大学院物理学専攻修了 (Ph. D)。2001 年京都大学大学院理学研究科教授。2009 年より 岡山大学教授。専門は、素粒子実験、高エネルギー物理学

2009 年新学術領域研究(研究領域提案型)
マクロコヒーレント増幅機構を用いたニュートリノ対生成の検出 43,030 千円
原子が切り拓く極限量子の世界 7,150 千円

平成 21 年 11 月 20 日「極限量子研究コア」の発足式 (本学 HP より)

「極限量子研究コア」は本学教育研究プログラム戦略本部におかれる推進拠点の一つで、学長直下の研究組織として平成 21 年 1 月に発足、4 月にはコア長として笹尾登教授を京都大学から招聘し、鋭意組織づくりを進めてきた。このたび、笹尾教授のコア長就任から半年が経過し、組織が一定の完成を見せたことから、発足式を執り行うこととなった。

発足式には千葉学長、田中・岡田副学長をはじめとする多数の学内関係者が出席。千葉学長から「本学の研究の核となって欲しい」との挨拶があった後、笹尾コア長が記念講演を行い、「宇宙や素粒子には大きな謎が残っている。ニュートリノを鍵とし、新しい原理と手法でその謎の解明に挑みたい」と意気込みを語った。



(出典：事務局資料)

資料 2-6-1：プロジェクト研究教員選定要項（抜粋）

（教育及び管理・運営業務の軽減）

第5条 学長は、プロジェクト研究教員がプロジェクト研究に専念できる環境を確保するため、プロジェクト研究教員の全学における管理・運営業務を軽減するものとする。

2 関係部局の長は、プロジェクト研究教員がプロジェクト研究に専念できる環境を確保するため、プロジェクト研究教員の当該部局における教育及び管理・運営業務の双方又はいずれか一方を軽減するものとする。

（出典：事務局資料）

資料 2-6-2：プロジェクト研究教員の認定状況

研究推進拠点とプロジェクト研究教員の配置状況

「教育研究プログラム戦略本部」の下に設置された研究推進拠点に、教育、管理運営等の業務の負担軽減などの優遇措置を設けて、研究に専念する教員を「プロジェクト研究教員」と位置づけて、研究推進体制の充実を図っている。

1. 異分野融合先端研究コア（平成20年6月設置）

国際公募（募集人員11名に対し、応募者総数252件）によりテニユア・トラック教員11名を採用した。コア長及び採用した教員は、プロジェクト研究教員として認定し、教育、管理運営などの業務の負担軽減による研究専念などの優遇措置がとられた。

2. 極限量子研究コア（平成21年1月設置）

平成21年4月より京都大学からコア長として教授を招聘し、プロジェクト研究教員として認定した。

（出典：事務局資料）

資料 2-6-3：プロジェクト研究教員：異分野融合先端研究コアの研究成果の例示

・有機化学と植物科学の融合：植物ケミカルバイオロジー 能年義輝助教

RRS1 and RPS4 provide a dual Resistance-gene system against fungal and bacterial pathogens. The Plant Journal, 60(2009), 218-226

・メカトロニクスと材料工学と医学の融合：柔軟機能デバイスの創成 脇元修一助教

Development of an Intelligent Pneumatic Cylinder for Distributed Physical Human-Machine Interaction. Advanced Robotics 23(1-2):203-225, 2009.

・地球化学と生態学の融合：同位体生態学 兵藤不二夫助教

The structure of a food web in a tropical rain forest in Malaysia based on carbon and nitrogen stable isotope ratios J. of Tropical Ecology, 26(2010), 205-214

・分子遺伝学とコンピュータ科学の融合：細胞のロバストネスの研究 守屋央朗助教

Plasmid Construction Using Recombination Activity in the Fission Yeast Schizosaccharomyces pombe. PLoS One, 5(2010), e9652

・液体工学と発生学の融合：マイクロ生殖医工学 松浦宏治助教

Improved Development of Mouse and Human Embryos by Tilting Embryo Culture System Reproductive Biomedicine Online, 20(2010), 358-364

・再生生物学と進化科学の融合：生体再構築 佐藤伸助教

Dermal fibroblasts contribute to multiple tissues in the accessory limb model. Dev. Growth Diff. 52 (4): 343-350 MAY 2010

計原著論文：欧文35件、邦文1件、総説他3件、著書他4件（2009年以後 in press を含む）

（出典：事務局資料）

資料 2-7-1：学術分野のインフラストラクチャー充実のための予算：全学的経費の推移

全学的経費については、運営費交付金が減少していく中で、学長のリーダーシップを発揮してより戦略的な運営、教育・研究の活性化を図るために毎年度配分事項を見直ししながら必要額を確保している。

平成 20 年度においては、大学の新たな戦略を反映し特定の事業を实践・推進するための経費「事業推進等経費」を新設し 4 億 4 千万円を計上するなど、より一層重点的な施策に重きを置いた戦略的予算配分を行っている。

研究資金については、学内 COE などの特別配分経費（競争的資金）により学内公募による審査や、継続分については中間評価の結果により配分されている。

また、研究設備についても全学で策定した設備マスタープランによる計画的な整備が行われるとともに、必要に応じて見直しを行っている。

（単位：千円）

事項	年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度
全学的経費		1,012,767	1,006,217	1,001,980	1,142,578	1,649,574	1,699,840
(設備充実費)		—	—	—	(158,578)	(203,645)	(213,639)
(特別配分経費)		(308,403)	(207,200)	(207,000)	(205,000)	(205,000)	(205,000)
(図書館学術情報基盤経費)		—	(198,000)	(196,000)	(195,000)	(195,000)	(195,000)

※1：（ ）内は全学的経費の中の事項であり、金額は内数である。

※2：各年度の経費は、毎年配分事項の見直しが行われている。（例：平成 16 年度は設備充実費、図書館学術情報基盤経費は、全学的経費の中の他の事項に含まれている。）

（出典：事務局資料）

資料 2-7-2：平成 21 年度における国の補正予算による研究設備等の充実

1. 顕微鏡及び関連装置	2 件	373,294 千円	
2. 質量分析装置等	17 件	871,297 千円	
3. 核磁気共鳴装置	1 件	109,500 千円	
4. 学内ネットワーク関連	1 件	329,000 千円	
5. 実験・実習用装置	1 件	223,778 千円	
6. 医療機器設備	1 件	244,385 千円	
7. その他		67,290 千円	計 2,218,544 千円

研究設備導入の説明会の例示：

医学部共同実験室電子顕微鏡概要説明会（新規導入）

日時：平成 22 年 2 月 18 日（木） 16:00～18:00

場所：医学部基礎研究棟 1 階大学院セミナー室（新基礎棟）

内容：16:00～16:40 H-7650（株式会社日立ハイテクノロジーズ）

16:40～17:20 S-4800（株式会社日立ハイテクノロジーズ）

17:20～18:00 X 線分析装置（株式会社AMETEK）



（出典：事務局資料）

資料 2-8-1：共同利用スペースの確保状況（平成 22 年 3 月 31 日現在）

地区名	棟名称	実態調査面積（㎡）		備 考
		共同利用スペース		
		共通のスペース	競争のスペース	
津島	理学部本館	513	1,826	オープンラボB8(3F 539㎡)、共同実験室他
津島	工学部 1 号館	131	0	機器分析室他
津島	教育学部本館	324	620	オープンラボ(プロジェクト対応)他
津島	農学部 1 号館	248	726	共通実験室、オープンラボ(3F726㎡)
津島	薬学部本館	0	42	実験室
津島	自然生命科学研究支援センター	773	0	動物飼育室他
津島	自然生命科学研究支援センター	931	0	分析機器室他
津島	新技術研究センター	0	755	核磁気共鳴装置室他
津島	コラボレーション棟	1,130	0	核磁気共鳴実験室他
津島	文化系総合研究棟	0	888	オープンラボA(4F 888㎡)
津島	自然系総合研究棟	0	7,417	オープンラボC(6F 1175㎡)、実験スペース
鹿田	基礎医学棟	152	0	電子顕微鏡室他
鹿田	自然生命科学研究支援センター	1,025	0	動物飼育室他
鹿田	自然生命科学研究支援センター	1,372	0	化学実験室他
鹿田	総合教育研究棟	0	3,114	オープンラボD(1～2F 920㎡)、実験室他
鹿田	基礎研究棟	366	612	
三朝	研究センター棟	922	0	機器分析室他
三朝	第二研究棟	767	0	質量分析計室他
芳賀	産学官融合センター	0	686	地盤物性研究室他
津島	工学部 2 1 号館	0	902	オープンラボE
津島	一般教育棟	826		フリースペース、学生控え室、ラウンジ、リフレッシュルーム他
津島	工学部 2 号館	168	0	リフレッシュコーナー
津島	工学部 3 号館	303	0	リフレッシュコーナー、多目的室
	計	9,951	17,588	(合計27,539㎡)

(出典：事務局資料)

資料 2-8-2：オープンラボラトリー整備・利用状況（平成 22 年 3 月 31 日現在）

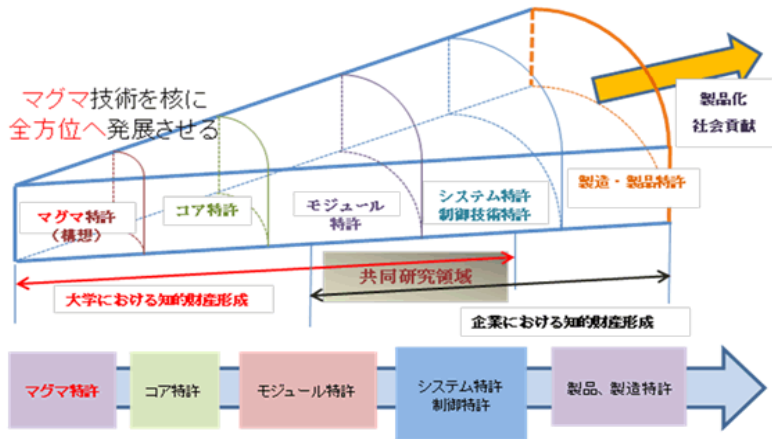
名称(建物名)	整備区画数(面積)	利用状況
ラボA(総合研究棟(文系))	9区画(559.4㎡)	9区画(559.4㎡)
ラボB(理学部本館1号館)	9区画(354㎡)	6区画(247㎡)
ラボC(総合研究棟(工学系))	16区画(720㎡)	9区画(405㎡)
ラボD(総合教育研究棟(鹿田))	11区画(359㎡)	11区画(359㎡)
ラボE(旧工学部21号館)	11区画(659㎡)	11区画(659㎡)

※オープンラボE・動物飼養施設の新営にともなう本学動物実験一元管理体制の充実
 新営の工学部 21 号館動物飼養施設を自然生命科学支援センター動物資源部門の津島北施設とし、従来の農学部・薬学分室を同津島南施設と名称変更し、鹿田施設を合わせて各施設に運営会議を設けて、それを総括する部門連絡会を置くこととした。これにより本学動物実験規則及び動物実験委員会要項をふまえて、実験動物飼養管理等に関わる一層の適正が図られた。

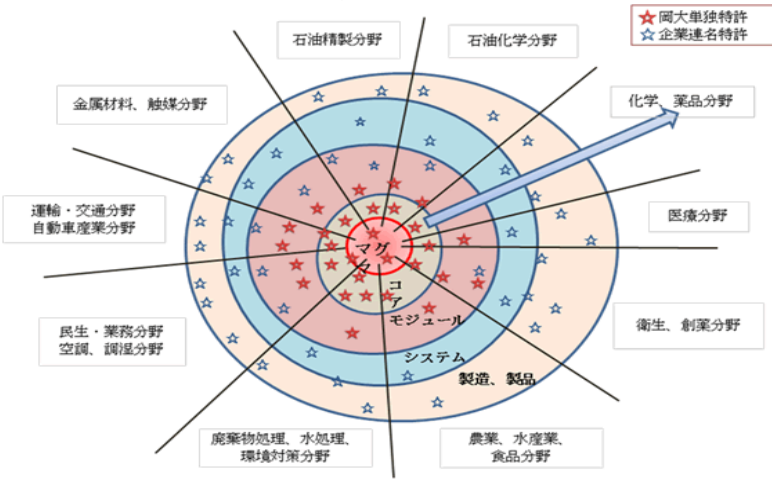
(出典：事務局資料)

資料 2-9-1：マグマ特許による大型知的財産の形成戦略の概要

マグマ特許を核とした製品開発の時系列的展開と形成される特許群



マグマ特許を核として全方位に発展する大型面的特許群のイメージ



- ・大学の研究者による研究内容には「基礎現象の解明」や「新規物質の製造」、「根源的病気治療法の提案」など原理原則に近いところを探索するものも少なくない。
- ・このような原理原則を解明した技術を、岡山大学では「マグマ技術」、それに関連する特許を「マグマ特許」、「マグマ技術」の機能確認や効果検証が成された技術を「コア技術」、「コア特許」と呼ぶ。
- ・「マグマ特許」と「コア特許」に関しては岡山大学が保有し、独占的な外部提供は行わないことにより、多くの産業分野を対象にあらゆる企業へ実施許諾を行い、産業を活性化し社会貢献度の最大化を目指す、オープンイノベーション戦略を採っている。
- ・本学は、平成 20 年度、知的財産戦略の一環として、「マグマ特許」の商標を出願した。

(出典：事務局資料)

資料 2-9-2：知的財産の動向

区分	19 年度	20 年度	21 年度
特許出願（国内）	88	77	81
特許出願（外国：PCT 出願）	23	25	38
特許出願（外国：指定国移行）	52	38	21
特許取得（国内）	10	16	23
特許取得（外国）	0	3	5
技術移転等（件数）	11	9	18
技術移転等（金額：千円）	9,079	6,363	12,562
マグマ特許戦略面特許		2	3
パテントリザルト社特許資産の規模スコア*		7,503	7,949
パテントリザルト社大学のみ順位	5 位	4 位	8 位
大学発ベンチャー当該年度発足数	8	1	
大学発ベンチャー当該年度発足数順位	1 位	圏外	
大学発ベンチャー活動数	27	28	
大学発ベンチャー活動数順位	16 位	16 位	

- ・「抗体医薬による脳梗塞の新規治療法の発明」（医歯薬総合研究科：西堀正洋教授ら）が、平成 21 年度 21 世紀発明奨励賞（（社）発明協会が実施）を受賞した。

*パテント・リザルト社が、各研究機関や大学が保有する有効特許を対象に「量」と「質」の両面から独自に分析して算出したもの。質の分析には、特許庁審査官による審査結果や競合出願人によるけん制行為など、各特許に対して実施されたさまざまなアクションを数値（スコア）化したものを用いた。このスコアの高いものを同社では「注目度の高い特許」と見なしている。

平成 21 年度から、順位の算出方法が変更された。

平成 21 年度は、上位 20 機関中で 1 件当たりの特許資産の規模が高い 2 番目の大学として、本学が紹介された。

(出典：事務局資料)

資料 2-10-1：研究推進産学官連携機構の充実

所属・役職	H19	H20	H21
○研究推進産学官連携機構			
研究・学術担当理事	1	1	1
副機構長(教授)	1	2	2
○研究推進本部			
本部長	1	1	1
副本部長	0	1	1
○産学官連携本部			
本部長(准教授)	1	1	1
副本部長	0	1	1
産学官連携コーディネーター	1	1	2
○知的財産本部			
知的財産部門長	1	1	0
知的財産マネージャー ※	2	3(1)	3(1)
知的財産プロデューサー	0	0	2
○社会連携本部			
社会連携マネージャー	1	1	1
○新医療創造支援本部			
産学官連携コーディネーター	0	0	1
○産学官融合センター			
教授・兼任	1	1	1
副センター長(助教)	0	0	1
事務補佐員	0	0	1
○機構事務室			
社会連携担当主査	1	1	1
事務職員	0	2	2
事務補佐員	0	1	1
※ 知的財産マネージャーの(1)は助教で内数			

平成 21 年度までの増員：

副機構長 1 名

研究推進本部

副本部長 1 名

産学官連携本部

副本部長 1 名

産学官連携コーディネーター 1 名

知的財産本部

知的財産マネージャー 1 名

知的財産プロデューサー 2 名

新医療創造支援本部

産学官連携コーディネーター 1 名

産学官融合センター

副センター長 1 名

事務職員 1 名

機構事務室

事務職員 3 名

研究推進産学官連携機構建物



(出典：事務局資料)

資料 2-10-2：外部資金獲得状況

(単位：千円)

	科学研究費補助金		一般受託研究		共同研究		寄附金		合計
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	金額
平成16年度	636	1,700,913	142	985,022	114	209,593	2,528	1,543,835	4,439,363
平成17年度	657	1,870,749	158	903,316	153	325,982	2,223	1,555,179	4,655,226
平成18年度	682	1,918,950	198	1,634,380	186	437,168	2,341	1,530,883	5,521,381
平成19年度	666	1,994,000	207	1,307,097	219	431,950	2,539	1,478,539	5,211,586
平成20年度	655	2,034,989	218	1,599,758	212	335,661	2,192	1,582,160	5,552,568
平成21年度	686	2,018,005	232	1,111,750	185	320,041	2,124	1,657,461	5,107,257

(出典：事務局資料)

資料 2-11-1：平成 21 年度施設パトロール及び評価方法

平成 21 年度施設パトロール：
平成 22 年 1 月 12 日～22 日実施
(担当理事・委員を務める研究科長等が参画)

施設パトロール日程等

1. 日程

月・日	午前(9:00～12:00)	午後(13:30～17:00)
1月12日(火)		【津島】教育学部 【東山・平井】教育学部附属学校
1月13日(水)	【鹿田】医・歯学部・保健学研究科 (動物資源部門、光・放射線情報解析部門含む)	【鹿田】附属病院
1月14日(木)	【三朝】三朝地区(13:00～16:00)	【三朝】三朝医療センター 地球物質科学研究センター
1月15日(金)	【津高】津高牧場・【芳賀】産学官融合センター	
1月18日(月)	【津島】環境理工学部・埋文調査研究センター	【津島】工学部
1月19日(火)	【津島】理学部	【倉敷】資源生物科学研究所
1月20日(水)	【津島】中央図書館・総合情報基盤センター	【津島】農学部(動物資源部門、農場)
1月21日(木)	【津島】文・法・経済学部	【津島】学務部
1月22日(金)	予備日	

施設パトロールの結果及び基準，各部局提出の要求書から右記の評価項目・配点で段階評価を行い事業の優先順位を決定した。



教育研究環境整備費による整備事業の評価方法

事業評価については、各部局から提出された要求書及び施設パトロールの結果から下記の評価項目・配点で段階評価を行い、事業の優先順位を決定する。

評価基準

評価項目		評価の目安	配点 ①	重み ②	計 ①×②	備 考
緊急性 (劣化)	放置した場合の危険性 (安全対策)	現状で十分数値できる	0	5		
		危険度は少ない	1			
		応急措置で対応出来る	2			
		老朽が進行していて対策必要	3			
		非常に危険で緊急を要する	4			
機能性 (劣化性 経済性 快適性)	機能性 劣化性 経済性 快適性	投資効果は低い	0	4		
			1			
		投資効果は普通	2			
			3			
		投資効果が高い	4			
環境への効果	省エネ効果等	省エネとは関係ない	0	2		
			1			
			2			
			3			
		省エネ効果が高い	4			
部局の要望状況	部局からの要求順位	要求順位が高い	0	3		
			1			
		要求順位が普通	2			
			3			
		要求順位が低い	4			
メンテナンスの状況	日常の保守が実施されているか	されていない	0	1		
			1			
		普通	2			
			3			
		されている	4			
特記事項			配点 計		(満点60)	

(出典：事務局資料)

資料 2-11-2：岡山大学におけるスペースの有効活用に関する規則（抜粋）

(基本方針)

第 2 条 本学におけるスペースの利用は、本学の全ての施設は全学共有のものであるとの認識の下に、全学的見地に立って、弾力的かつ計画的に行われなければならない。

(全学共同利用スペース)

第 5 条 全学共同利用スペースに、全学的プロジェクトとして実施する教育研究活動その他のプロジェクト的教育研究活動に対し、利用期間を定めてスペースを提供するため、オープンラボラトリーを設置する。

2 オープンラボラトリー以外の全学共同利用スペース（以下「全学共通スペース」という。）は、組織の新設、施設の大規模改修等に伴う一時移転の場合その他全学的見地から特別にスペースを措置することが必要と認められる場合に利用することができる。

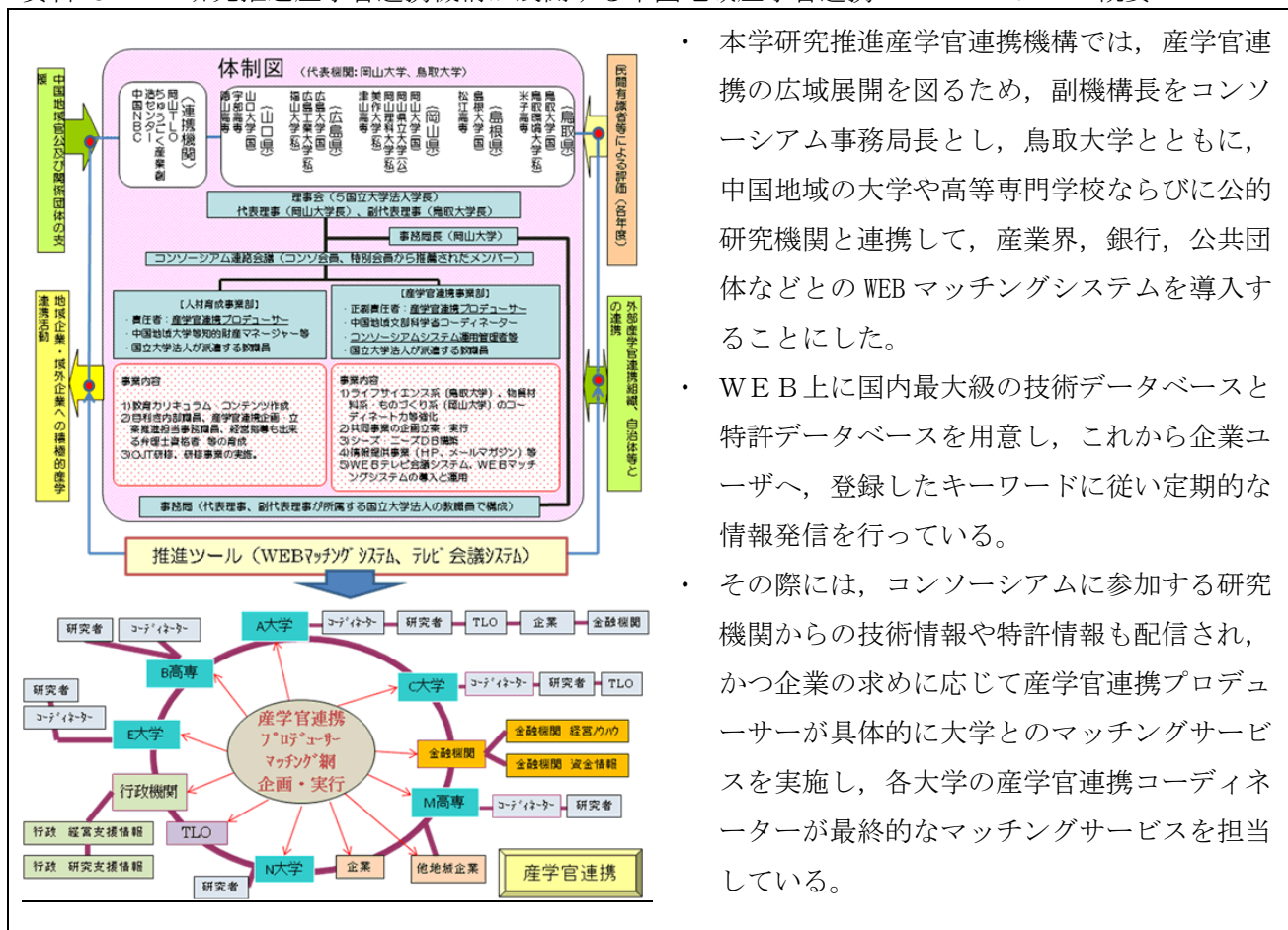
(指定建物における部局共同利用スペースの積極的確保等)

第 9 条 別表の指定建物名称欄に掲げる建物（以下「指定建物」という。）を管理する部局の長は、部局共同利用スペースの積極的な確保に努めるものとする。

2 指定建物を管理する部局の長は、指定建物に部局共同利用スペースを設ける場合は、その一定割合以上について、利用期間を定めて競争により利用者を選定するよう努めるものとする。

(出典：事務局資料)

資料 3-1-1：研究推進産学官連携機構が展開する中国地域産学官連携コンソーシアムの概要

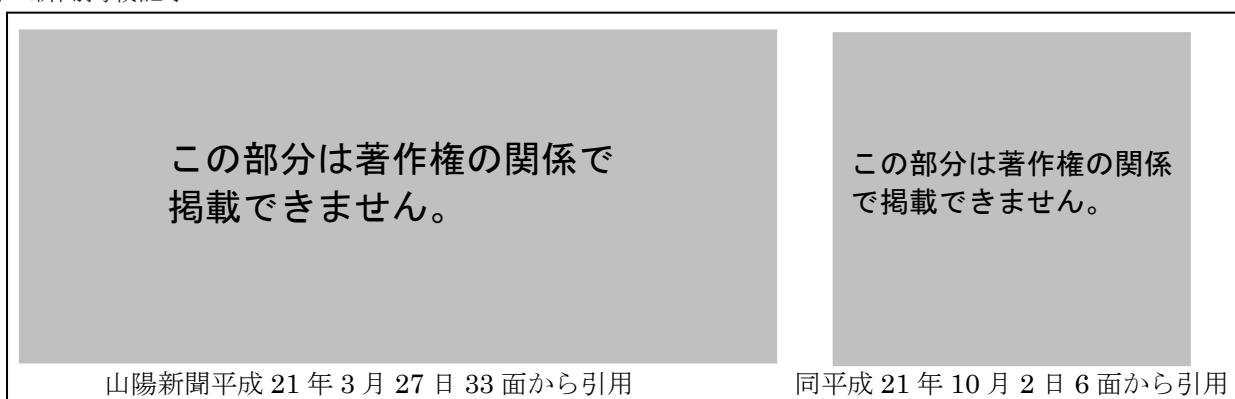


(出典：事務局資料)

資料 3-1-2：平成 20、21 年度締結 6 件の包括協定一覧

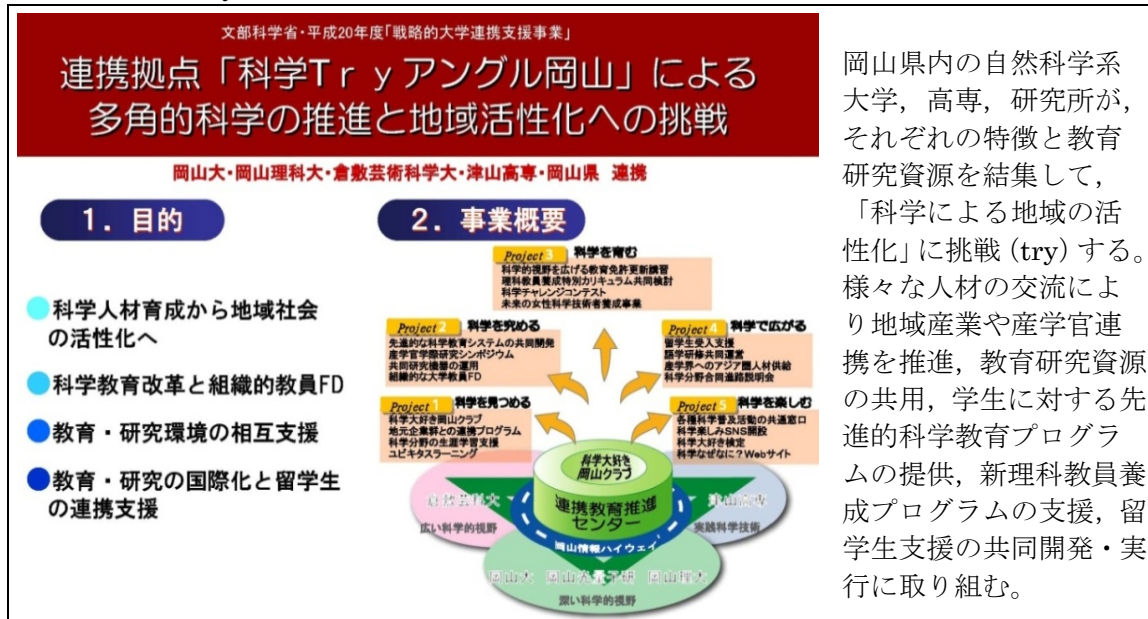
1. 岡山大学と独立行政法人国立高等専門学校機構津山工業高等専門学校との包括的連携・協力に関する協定を締結（平成 20 年 5 月）
2. 岡山大学と学校法人加計学園岡山理科大学との包括的連携・協力に関する協定を締結（平成20年 6 月）
3. 岡山市と保健医療連携に関する協定を締結（平成21年 3 月）
4. 岡山大学と独立行政法人産業技術総合研究所との連携・協力に関する協定を締結（平成 21 年 3 月）
5. 岡山大学とナカシマホールディングスとの連携・協力に関する協定（平成 21 年 10 月）
6. 岡山大学とサンスター株式会社との包括的研究協力に関する協定締結（平成 22 年 2 月）

図 新聞掲載記事



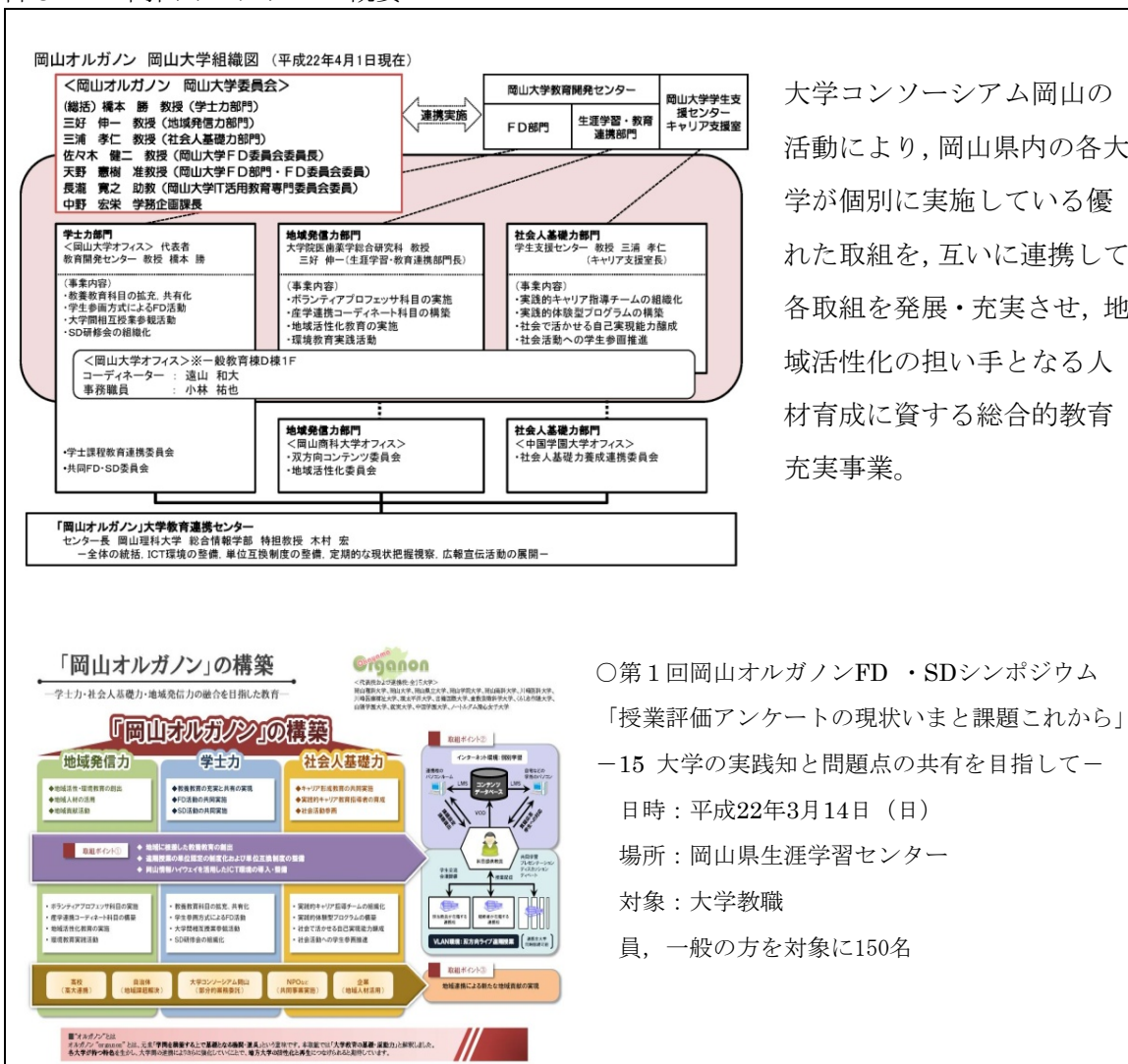
(出典：事務局資料)

資料 3-2-1：科学 Try アングル岡山の概要



(出典：事務局資料)

資料 3-2-2：岡山オルガノンの概要



(出典：学務部資料)